

平成 27 年度 第 2 回 文化創造都市高岡推進懇話会 会議録

日 時：平成 28 年 2 月 16 日（火） 14：00～15：30

会 場：高岡市役所 801 会議室

出席者：【座 長】武山 良三

【委 員】駒澤 義則、晒谷 和子、林口 砂里

【アドバイザー】佐々木 雅幸

【当 局】草壁部長、山口政策監、柴田課長

【事務局】新田主幹、中嶋主査、鍋山専門員

1 開 会

・座長あいさつ

2 協議事項

(1)平成 27 年度 文化創造都市高岡推進事業の内容について

(2)平成 28 年度 文化創造都市高岡推進事業（案）について

事務局： — 資料説明 —

座 長： 内容について説明があったが、アート&クラフトシティを表現した事業についてご意見を頂きたい。

委 員： 金屋町楽市市場街及びクラフトコンペ等との連携はどのようになっているか。

座 長： 現在、連携会議を開き、同時開催する方向で少しずつ連携を進めている。開催日は 9 月下旬の予定である。楽市などのイベントについて振り返ると、実際に町屋を解放する市民の負担や、スタッフの人的な問題などが課題として挙がってきた。一方、東京や県外から来てくださる来場者も増えている。もう一段事業をブラッシュアップし、満足して帰って頂く必要を感じている。クラフトコンペは現代の作品を、楽市は工芸を体感して頂く場とし、トータルで生活の中の工芸を体験してもらえればと考えている。現在、銅器現場は職人が 1 人で作業している場合など少数で作業しているところもあるが、それが逆に面白く感じられる部分がある。燕三条の工場なども小さな工場のほうが面白い。いい意味で、そのような取り組みを評価する動きが全国的にも盛り上がってきている。

遠来の人は高岡に寄ってから新潟に行くことも苦ではないので近隣の市との事業連携も考えていければと思う。

また、関係者は頑張っているが、市民の参加が少ない。市民、グループや団体、商業施設、イオンなどあらゆるチャンネルを使って地域との連携をどこまで拡大できるかがポイントだと思う。従来は中心市街地活性化という視点が第一にあり、それが強かったと思うが、現在はそのような時期は過ぎたと考える。高岡全体で考えるべきと思う。

座長：次に、文化創造都市高岡 TV 番組作成事業について、ご意見を頂ければと思う。

座長：現在は県外への発信がなされていない点が残念である。制作委託している KNB の許可を得て youtube 化してはどうか。そのようにできれば、新たなコンテンツをつくらずに、web サイト等でも動画等を併せて掲載できるので効果的と考える。

また、取材している人材についても、もうすこし領域を広げていくことも検討頂きたい。例えば料理人などの他ジャンルの方、またカロエ（高岡鋳物加工組合）などの年配の職人の方についても扱ってもらえば内容に説得力と厚みが出る。若手と年配の対談など 2 人組での番組制作も、本物感が出て良いと思う。また、裏側を紹介することで魅力がさらに増す。

座長：web サイト構築については期待大というところであるが、文化創造都市というタイトルを無理につけなくてもよいと思う。外側よりも中身が大事だと思う。ふつうのサイトになってほしくない。とんがったものになってもらいたいと思う。

委員：ライターも入れるので、更にブラッシュアップしたい。

座長：トップページの画像等を高岡市の HP などにも掲載してもらいたい。今回作成された瓦版についても、内容がとてもしっかりと思うが、反面露出が少ないと思う。

委員：20,000 部を作成したが、14,000 部を東京の地下鉄等に配布した。主目的が市外への発信であったこともあり、市内分の部数が少なくあまり置けなかった。

座長：ぜひ市民にも配って欲しいと思う。年度末に予算があまれば追加印刷してもらいたいほどである。

委員：利長くんのイメージであるが、衣装が町民のように見える。せめて袴を着せて頂くなど配慮が欲しい。

委員： 平和な時代の利長くんということで、高岡商人風の表現を行ってみたが、まだ未定稿なので今後調整したい。また、本来は利常公も重要な人物なので、そちらについても作成中である。

委員： 平成の御車山の製作の際に熟慮したことがあった。再考について検討頂きたい。

座長： このサイトではお殿様を無理に出さなくても問題ないと思う。町人がたくさん出てきて、彼らが主役となってまちをつくっているというところが見えれば良いと感じる。

委員： 作成した後どう運営していくかがポイントだと思っている。ウェブサイトの広告費は安いので、シンラドットネットなどを活用して、安価に記事を作成して出稿していきたい。

座長： 最近顔出しの看板などが人気である。高岡新駅などで設置してもよい。

座長： 次に、つままフォーラムについて意見を頂きたい。今年度は富山大学芸術文化学部で行う芸術文化探究講座において、連携して実施してきたいと思う。知識人などを集めた講演だが、文化人の講話は大変ためになると感じている。

座長： 他にご意見がないようであれば、全体について佐々木アドバイザーからもご意見を頂ければと思う。

佐々木氏： 昨日、文化庁文化政策部会において次年度予算の選定があった。2020年のオリンピックに向けて、文化庁は日本全体で多様な文化イベントを行っていきたく考えている。その中でも各地の創造都市が担う部分は大きくなると考えている。創造都市ネットワーク日本総会がまた開かれるが、同会では目標70自治体を目指しており、じきに達成できる見込みである。富山県でも高岡市をはじめ富山市、南砺市、氷見市など加入している。

また、ユネスコの創造都市は116都市となった。日本では新規に篠山市がクラフト&フォークアートで加盟した。篠山市は人口4万人しかいない都市であり、そもそも規格外であったが、2度の申請を通じてなんとか認可された。これで、世界でクラフト&フォークアートで認定された都市は10都市となった。高岡市が進めるクラフト&アートもその世界的な流れに合う取り組みである。市民の関心は外部からの評価である場合が多いので、機会があれば国際的な申請を考えても良い。シンポジウムなどの開催も視野に入れてはどうかとも思う。

今、私どもが文化プログラムと言っているのは、この10月にリオでの五輪が終わった後、文化庁では4年間で20万件のアートプログラムを取り上げたいと思っている。それぞれの地域で多様な文化プログラムを展開できればと考える。観光、スポーツなどと異なり、文化はオリンピック開催において重要な位置づけになってきている。ロンドンオリンピック以降、文化を主体とした観光に繋ぐ流れが活発になっている。今月26日の総会においても、文化庁長官の青柳氏が講演するが、是非聞いて頂ければ今後の流れが掴めると思う。

また、それらを進めるにあたって、地域プロジェクトのプログラムを作成するために、アートプロジェクトを進める専門家、プログラムディレクターを、国・県に置く予算を考えている、次年度は5～7県を考えているが、十数件の応募があった。高岡市でも文化プロジェクトを実施する専門家を支える体制づくりについて検討することで、さらに安定した文化創造都市の推進が図られると思う。

座長： オリンピックに関連するが、富山空港をはじめ、地方空港を活かすことも必要。成田などはキャパシティオーバーと聞く。東京でも宿が取れないことが多い。

佐々木氏： 金沢市においても、近年お客が増えすぎて街が乱れてきている。21世紀美術館においても年間200万人の来場者があるが待ち時間が長くなりすぎている。近江町市場においても、地元の住民が逆に利用しなくなったことで売り上げが落ちる現状が起きている。中国人による爆買いも一過性のものと思う。リピーターを北陸全体で受け入れる体制を進める必要がある。

委員： 高岡へ来て頂ける人が増えているが、きちんとおもてなしできているかという点はまだまだと感じる。金屋町なども綺麗に整備してあるが、それだけでは満足感が少ない。なんらかの体験できるような場を整備する必要がある。高岡でいうと工場の職人の取り組みなどを体感して帰ってもらうことが特色なので、富田工房跡の整備が進んでいないのは非常にもったいないと思う。また、宿泊施設がない点も課題である。高額でも泊まりたいと思えるような場所が一つあれば違ってくる。

佐々木氏： 篠山市ではリノベーションのプロに参画してもらっている。

委員： リノベーションにおいては、ヴィヒタなどの施設を引っ張ってくることを考えている。なんらかの方法で高岡市にリノベーションの場を整備できればと思う。

座長： 周回遅れのトップランナーが最先端と言われて久しいが、万葉線などもこれに挙がる。種々の事情により壊せなかったものが、最近になって脚光を浴びている。そ

ういうものが高岡には山積しており、それを活かす事業者が現れたらすぐに上手くいくような予感がある。

佐々木氏： 篠山市を拠点とするノオトはもともと民家再生のビジネスモデルを目的とし、それが成立したことがきっかけ。最初は営業許可がとれなかったくらいだが、今は全国でも注目を浴びている。小さい団体だがノウハウは持っている。創造都市ネットワークを活かすことで、それらの情報についてはいくらかでも支援できると思う。

座長： 一店舗ではビジネスモデルとしてはなかなか難しい。ホテルなど相互が連携し、ネットワークを形成しだすと良い流れになるかと思う。

佐々木氏： 金沢が進めるクラフトツーリズムはホテルのコンシェルジュブースなどにそれらの情報を配置している。富裕層はそういったものを体感したいという意図が強いので、少人数ではあるが良質な顧客を獲得できている。

委員： 自身は「伝える」取り組みの部分でお手伝いできるかと思う。金屋町にオープンした KANAYA であるが、最近、蔵の修復が完了した。竹平氏が創業した場所ということで歴史的にも意味のある建物と思っている。しかし、専従の職員がいないので、水・木・土・日は閉めている実情がある。そこで、この KANAYA を舞台になんらかの発信地として使って頂けないかと感じている。12 月から北陸銀行の CM で KANAYA も紹介頂いており、認知度は上がってきていると感じている。家主から、活用については一任されているのでアイデアが欲しいという気持ちもある。ボランティアによる活用も含め、自由に使って頂ければと願っている。30 人くらいは入れるスペースがあり、エアコンもついているので、文化創造の市民会議等で活用していただきたい。また、明治期の伝統工芸を見せることが高岡の特色だと考えており、それを常設展示できないかとも考えている、良い案があればぜひ検討頂きたい。

部長： 金屋町は高岡市のイメージのメインでもある。検討したい。

佐々木氏： そのスペースでワールドカフェを実施するなど、なんらかの取り組みを一度やってみたらいいと思う。

座長： それでは意見も出尽くしたということで、事務局よりスケジュールの説明をお願いしたい。

(その他 今後のスケジュールについて説明)

委員： スケジュールについて説明があったが、市民会館について一点お伺いしたい。市民会館は、現在廃止せずに使うということとなっているが、それ以外にも美術館に設置している藤子氏のギャラリーや、博物館の老朽化について意見交換が必要と考える。この場に不在であるが、村上委員の提案していた美術館と博物館、藤子ギャラリーの合同施設構想など、それらについてどのように今後進めていくのか気になっている。それについてこの場で話し合っていくのか。

部長： 施設の件については、問題意識は持っている。この場で扱うかどうかは検討中である。文化創造都市のイメージを進める中で、市民会館についてここで話すか、また専門的な分野であることから、別途分科会などを設けるかについても検討中である。

座長： 私はあくまでもこの懇話会はソフトの検討の場と思っている。ハードについては色々とテクニカルな部分がある。予算など目途がついてからの検討事項と考える。

委員： 高岡市の魅力というと、やはり銅器の作品を見ることができるという点であるが、実際に美術館に行っても、現状では常設展が存在していないことは残念である。藤子ギャラリーも魅力的なコンテンツなので、どちらとも言い切れないが、どこかで鑑賞できる場は必要かと思う。

部長： 常設展示のフォローはなんらかの必要を感じている。地下のスペースなども検討しているが、作品の品位から難しいとも考えている。収蔵庫に保管しているだけでは意味がないという意識は持っている。

座長： この鋳物のまち高岡で、展示されていないというのはたしかに問題かと思う。本来なら瑞龍寺などに行った際に展示してあるなら、整合性とオリジナリティを感じる。一方でドラえもんも高岡の持つ大きなコンテンツの一つである。いい発言であったと思うので、今後も検討してもらいたい。

3 閉会

以上